

事業シート(概要説明書)					
事業名	知新館管理運営事業			担当部名	生涯学習部
				担当課名	文化課
事業年度	開始年度:平成元年度		終了年度:		
総合計画での位置付け	人づくりと文化の振興 文化財の保存 文化財の活用 郷土史学習の推進				
根拠法令等	文化財保護法、知新館管理運営要綱				
実施方法	直接実施	一部委託	指定管理	補助金	その他
	実施主体・委託先等		知新館管理運営委員会		
事業概要	目的・必要性 (何のために)	市民共有財産である登録有形文化財を保存するとともに、公開し文化的活用を図る。また、市民の歴史学習の場及びコミュニティの場として活用し、地域の活性化を図る。			
	対象 (誰・何を対象に)	一般市民、観光客			
	事業内容 (手段、手法など)	地元町内会に管理を委託し、文化財施設として市民、観光客に公開するとともに、町内会、老人会等のコミュニティの場、歴史学習の場として活用を図っている。			

【支出】		H21決算	H22決算	H23決算	H24予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)				
	賃金				
	報償費				
	旅費				
	需用費	385	722	118	145
	役務費				10
	委託料	836	836	835	1,239
	負担金、補助及び交付金				
	扶助費				
	その他()	83	19	16	16
	合計(千円)	1,304	1,577	969	1,410

事業費の 財源内訳	国・県からの補助金等	351	534		
	地方債				
	その他()				
	一般財源	953	1,043	969	1,410
合計	1,304	1,577	969	1,410	

従事者数	正規職員(人/年)				
	嘱託・臨時職員(人/年)				

事業シート(概要説明書)

目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H22年度	H23年度	H24年度	
	年間利用者・来館者	目標			700	1,500
		実績		655	1,374	
指標選択理由	事業目的の効果が明確に反映される。					
事業目的の達成状況	平成23年度の実績は、目標の約2倍になっている。					
現在の課題と今後の対応	<p>上記の達成状況の大きな要因として、知新館という優れた歴史遺産を活かし歴史学習会等を開催するなど、多くの人々に文化財に親しんでもらおうとする知新館管理運営委員会(地元町内会)による地域活性化の積極的な取り組みによるものである。また、この活動は、地域の幅広い年代の方の交流が図られ、高齢化率の高いこの地域において、災害時等の要援護者対策にも寄与するという相乗効果が生まれている。</p> <p>しかしながら、施設については、経年老化により随所に雨漏り、設備の不具合が生じている。また、駐車場がないため観光客等からの不満の声も聞かれる。限られた予算の中で、効果的かつ効率的な予算運用に尽力しているところであるが不十分な状況にある。</p>					
今後の方向性	<p>直営(拡大・充実) 直営(現行どおり) 直営(要改善) 民間等実施 廃止</p> <p>利用者・来館者が快適な環境のもと施設利用ができるよう要修繕箇所の改善を図りたい。また、管理を委託している知新館管理運営委員会を通じて、引き続き、地域コミュニティの場、芸術文化活動の場として、積極的な利用の働きかけを依頼する。行政としては、歴史資産を活かした地域活性化の模範となる事例であり、事業の充実を図っていくことの必要性を感じている。</p>					
特記事項 (事業の沿革等) (他都市との比較等)	<p>この建物は昭和13年、第35代内閣総理大臣平沼騏一郎の古希の祝いに、郷土の人々が、生家を復元、平沼家に贈呈したもの。その後、昭和25年に津山市に寄贈され昭和63年まで市立郷土博物館として利用されていたが、平成元年から「知新館」という名称で、市民の総合的な文化活動の場及びコミュニティの場として活用されている。</p> <p>文化財の種別 登録有形文化財(建造物) 指定月日 平成10年10月9日 所在地 津山市南新座26番地</p>					